

## 府内17動物病院における動物由来感染症発生状況（平成27年度）

○主な感染症の発生件数(合計) 898 件

### ★発生ランク

発生件数順位		件数
1位	マラセチア	376
2位	回虫症	220
3位	皮膚糸状菌症	94

※ 発生件数は臨床診断によるもの

### ○考察

平成27年度のマラセチアの報告件数は、年間を通じて、全体の中で多く占めています。  
なお、マラセチアについては、8月より報告対象について耳介部のみの発生を除外することとしたため、報告件数は例年より減少しています。

※家畜伝染病予防法に基づく犬のレプトスピラの発生報告が1件ありましたが、京都府内でのヒトのレプトスピラ症の発生報告はありませんでした。

※動物飼育ケージの清潔を保ち、ペットを触った後は必ず手洗いをしましょう。

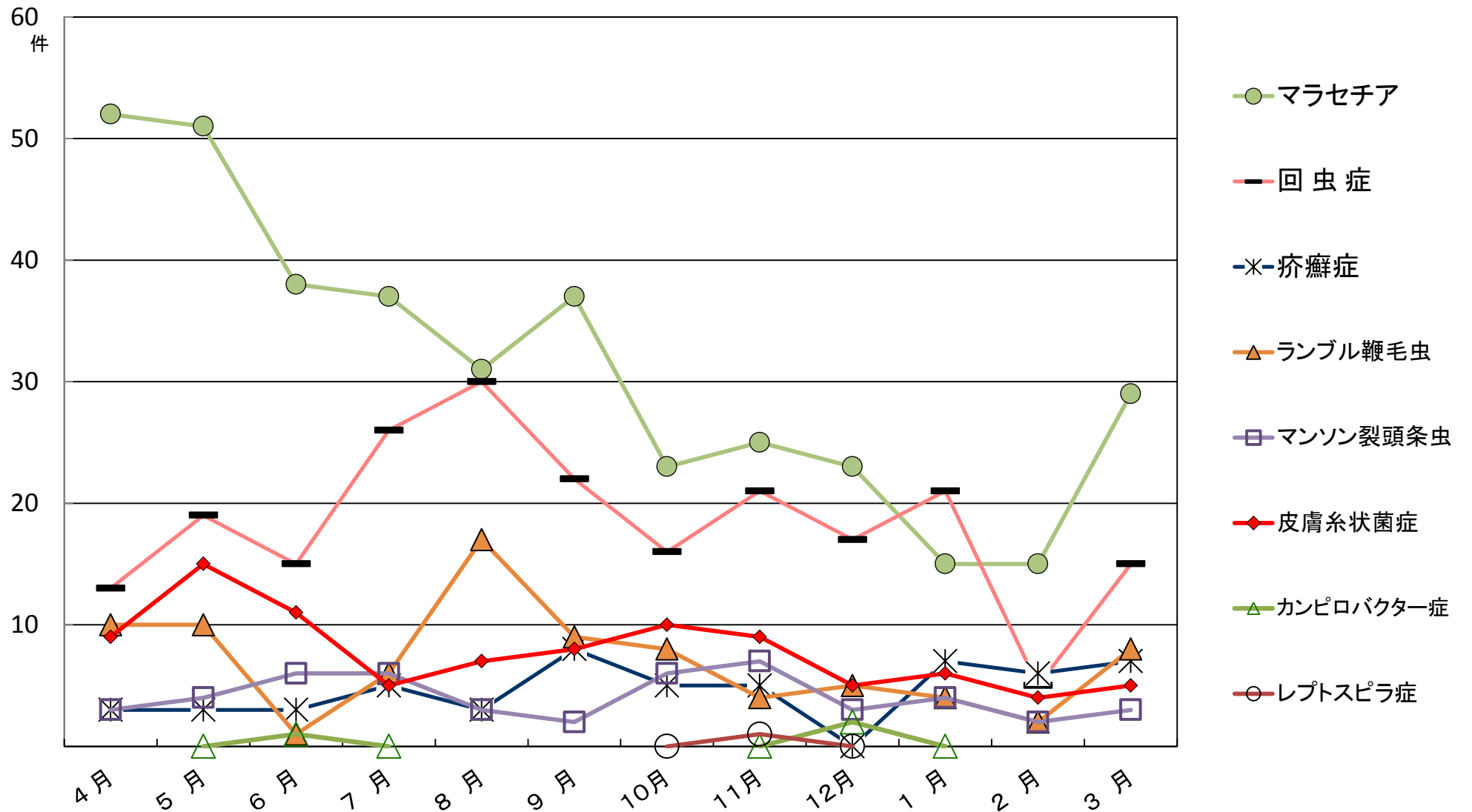
府内17動物病院における動物由来感染症動物種別発生状況（平成27年度）

【主な動物感染症】

属	感染症	犬	猫	その他	計
ウイルス	狂犬病				0
	高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)				0
	H5N1を除く鳥インフルエンザ				0
	新型インフルエンザ等感染症				0
クラジミア	オウム病				0
細菌	結核				0
	ブルセラ症				0
	レプトスピラ症	1			1
	カンピロバクター症	1	2		3
	パスツレラ症				0
	エルシニア菌症				0
原虫	ランブル鞭毛虫	74	9	1	84
	トキソプラズマ症				0
真菌	皮膚糸状菌症	39	49	6	94
	マラセチア症	368	8		376
寄生虫	マンソン裂頭条虫	5	44		49
	エキノコックス				0
	回虫症	69	151		220
	東洋眼虫		2		2
	鉤虫症	9	5		14
	顎口虫				0
	疥癬症(耳疥癬症を含まない)	24	31		55
計		590	301	7	898

※ 発生件数は臨床診断によるもの

府内17動物病院における動物由来感染症月別発生推移（平成27年度）



※ 発生件数は臨床診断によるもの

## 平成27年度動物由来感染症疫学調査結果

### ◇ レプトスピラ属菌検査

検体番号	検体		動物情報					検査結果
	種類	採取地域	動物種	種類	性別	大きさ	推定年齢	レプトスピラ属菌
1	尿	山城南	犬	柴犬	♂	中	3~5	陰性
2	尿	南丹	犬	雑種	♀	中	5~7	陰性
3	尿	丹後	犬	ポインター系	♂	大	3~5	陰性
4	尿	中丹西	犬	雑種	♂	中	1未満	陰性
5	尿	乙訓	犬	トイプードル	♂	小	6~8	陰性
6	尿	丹後	犬	ポインター系	♀	小	1未満	陰性
7	尿	山城北	犬	ミニチュアピンシャー	♂	小	9歳	陰性
8	尿	山城南	犬	雑種	♂	大	3~5	陰性
9	尿	中丹西	犬	雑種	♀	中	5~6	陰性
10	尿	中丹東	犬	雑種	♀	中	3	陰性
11	尿	山城北	犬	雑種	♂	中	4~6	陰性
12	尿	南丹	犬	雑種	♀	中	3~5	陰性
13	尿	中丹西	犬	雑種	♂	中	1未満	陰性
14	尿	山城北	犬	柴犬	♀	中	7~8	陰性
15	尿	丹後	犬	柴犬	♂	中	8~10	陰性
16	尿	中丹西	犬	雑種	♂	大	3~5	陰性
17	尿	山城北	犬	雑種	♂	中	5~6	陰性
18	尿	山城南	犬	雑種	♀	中	1~2	陰性
19	尿	山城北	犬	チワワ	♂	小	7	陰性
20	尿	山城南	犬	柴犬	♂	中	6~8	陰性
21	尿	丹後	犬	ラブラドルレトリバー	♀	大	5	陰性
22	尿	南丹	犬	雑種	♀	中	5~7	陰性
23	尿	丹後	犬	雑種	♀	中	不明	陰性
24	尿	山城南	犬	雑種	♂	小	10	陰性
25	尿	丹後	犬	雑種	♀	中	2~3	陰性
26	尿	南丹	犬	ミニチュアダックス	♂	小	7~9	陰性
27	尿	南丹	犬	ミニチュアダックス	♂	小	7~9	陰性
28	尿	丹後	犬	チン	♂	小	不明	陰性
29	尿	中丹西	犬	雑種	♂	大	2~3	陰性
30	尿	南丹	犬	雑種	♀	大	5~7	陰性
31	尿	山城北	犬	トイプードル	♂	小	1	陰性
32	尿	山城北	犬	マルチーズ	♀	小	7	陰性
33	尿	南丹	犬	ミニチュアダックス	♀	小	1	陰性
34	尿	南丹	犬	雑種	♀	小	2	陰性
35	尿	南丹	犬	雑種	♂	中	4~6	陰性
36	尿	南丹	犬	雑種	♀	中	4~6	陰性
37	尿	南丹	犬	紀州	♀	中	7	陰性
38	尿	丹後	犬	雑種	♂	中	5~6	陰性
39	尿	山城北	犬	シーズー	♀	小	9	陰性
40	尿	山城南	犬	雑種	♀	中	1	陰性